

<道徳教育>

豊かな心を育む道徳学習の工夫 — 総合単元的な学習」における心に響く資料の活用を通して 第4学年) —

糸満市立光洋小学校教諭 金城 こずえ

I テーマ設定の理由

現代社会は、目覚ましい科学技術の進歩や経済の発展により、物質的な豊かさを手に入れた。また、情報化、国際化が進み、価値観の多様化など、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化している。しかし、それと引き替えに、心の豊かさが失われてきたと言われ、学校現場においても、いじめや不登校などの問題が深刻化し、これらの変化を踏まえた新しい教育の在り方が問われている。

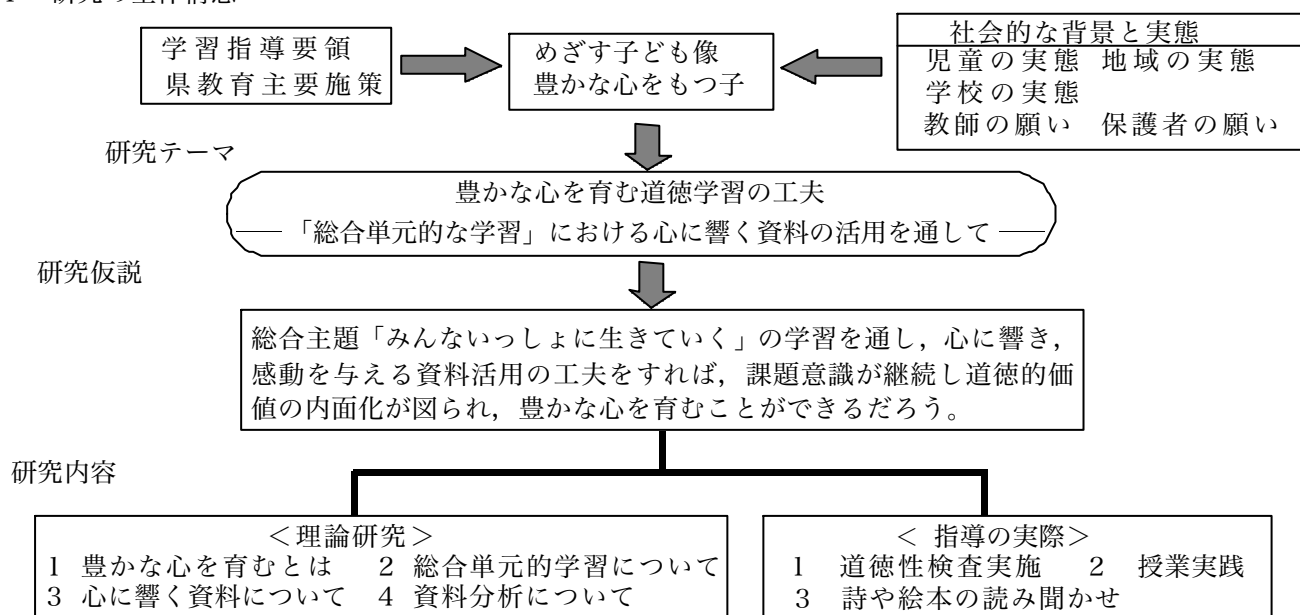
学校教育では、「生きる力」の核となる豊かな人間性を育てる心の教育が求められている。そのために学校は、家庭、地域社会と一体となり、子ども一人一人が、人間としてよりよく生きていくための道徳的実践力を育成する必要がある。道徳教育改善の基本方針にある、体験活動等を生かした心に響く道徳教育の実践では、教師と子どもが共に考え、悩み、感動を共有していくという姿勢をもとに、道徳的価値の自覚が図られるよう多様な取り組みを工夫し、魅力的な教材の開発や活用について考えていく。

これまで、感動したり、感謝できる心豊かな子を目指し、朝の会での詩の群読や絵本の読み聞かせなどに取り組んできた。「いい話だな」と心の底から共感し、感動できるような資料は、価値の追求へ動機づけるには十分効果的である。中でも、詩や絵本の内容には様々な道徳的価値が含まれているとともに、心に響く感動がある。教師自身が感動した詩や絵本の読み聞かせをすると、子どもたちはその温かさやよさにふれ、目を輝かせてその感動にひたることが多々あった。

そこで総合主題「みんないっしょに生きていく」を取り上げ、子どもの課題意識が継続化され、より深く価値の内面化が図れるよう総合単元的な道徳学習を実践していきたい。その中で、人間の生き方にかかわる、心に響く、魅力ある詩や絵本などを選択し、資料分析や提示の仕方などを工夫し、効果的な活用を考えていく。道徳の時間と朝の会での詩の群読や絵本の読み聞かせ等の体験を関連づけた実践をすることにより、道徳的実践力が高まり、豊かな心が育まれるだろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究の全体構想



2 豊かな心を育むとは

学習指導要領に述べられているように、これからの教育においては「生きる力」の核となる「豊かな人間性」の育成が求められている。

表1 「生きる力」の核となる「豊かな人間性」

- ・美しいものや自然に感動する心などの柔らかな感性
- ・正義感や公正さを重んじる心
- ・生命を大切に、人権を尊重する心などの基本的な倫理観
- ・他人を思いやる心や社会貢献の精神
- ・自立心、自己抑制力、責任感
- ・他者との共生や異質なものへの寛容

豊かな人間性とは、感性や心、道徳的価値であり、豊かな道徳性を意味する。道徳性は生まれたときから身に付いているものではなく、日々の生活における、自分自身、他の人、自然や崇高なもの及び集団や社会などの様々なかかわりを通して育まれていく。学校では道徳の時間のみならず、教育活動全体を通じて様々な体験をすることにより、道徳的価値の自覚を深めていくことができる。

豊かな心とは、「人間として生きていくうえで、欠くことのできない様々なかかわりの中で、主体的、自立的に生きて、道徳的实践をしていこうとする心」であり、豊かな人間性と捉えることができる。

3 総合単元的な道徳学習について

(1) 総合単元的な道徳学習とは

ねらいとする道徳的価値に関わる道徳的实践力の育成のために、道徳の時間の指導を中核として、その周りに道徳的価値を含む学習を配置し、それらの学習を発展的に展開することである。

(2) 総合単元的な道徳学習の構想と手順

① 総合単元的な道徳学習の意義を確認する。
総合単元的な学習は子ども主体の学習を展開できる可能性が高く、教科・領域における道徳教育を推進することができ、道徳的实践力の多面的な育成が図れる。

② 学校・学年の道徳教育重点目標や子どもの実態からくる課題に即し、教師の願いを込めて総合主題を設定する。

③ 総合主題に総合されるべき価値要素について、教科・道徳・特別活動において関連する学習を選択し、教科の学習の特性や時間的順序を考慮し配列する。(4つの類型)

④ 総合単元的道徳学習を貫いて、子どもにもたせるべき課題意識を明確にし、資料、教材、教具の準備をする。

(3) 総合単元的な道徳学習の単元構成について

① 類型Ⅰ・同一価値総合型

道徳の時間だけで総合単元を構成する類型の一つであり、一つの価値項目を年間3～5回繰り返して指導する型である。

② 類型Ⅱ・複数価値総合型 (本実践)

道徳の時間だけによって構成する類型であり、総合主題にせまる、複数の価値項目を配置し、関連づけて展開するものである。

③ 類型Ⅲ・教科等総合型

各教科及び特別活動の学習と道徳の時間の学習を関連づけて総合単元を構成する。

④ 類型Ⅳ・体験総合型

体験活動と道徳の時間の指導を直接結んで、道徳的实践力の育成を深めようと意図するものである。

本研究では、類型Ⅱ・複数価値総合型の中で、総合主題「みんないっしょに生きていく」を設定し、心に響く資料と絵本の読み聞かせや詩の群読を関連づけて展開し、道徳的価値の内的自覚を図る。

4 心に響く資料

(1) 心に響くとは

道徳の時間では、資料を通して、子どもたち一人一人の感情や感覚に揺さぶりをかけたり、それらをより深めることによって、道徳的価値を意識化、内面化させていく。直接的な行為の仕方ではなく、望ましい行為を支える心のよさについて学んでいく。「道徳の時間で意識化、内面化されたことが、子どもの生活の中で行為化、実践化されていく過程において、その橋渡しを担っているのが道徳的な感性」である。

「心に響く」とは感情や感覚に訴える感動・共感などの揺さぶりであり、その度合いが深ければ深いほど、道徳的な感性に訴え、道徳的实践力につながると考える。「心に響く」資料が道徳的な価値の内面化を図る重要な手だてとなる。

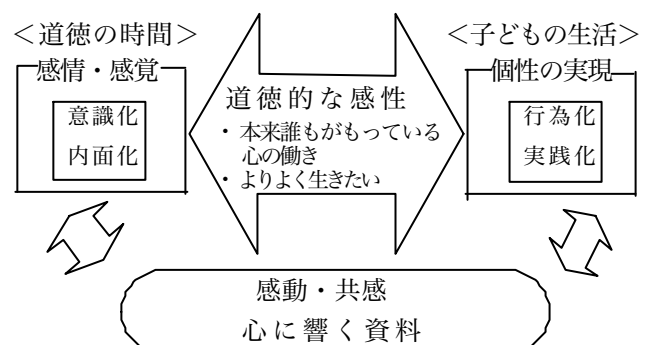


図1 道徳的な感性を刺激する感動・共感

(2) 心に響く資料の選定と活用

道徳の時間における資料は、道徳的価値の内面的な自覚を深めていくための手がかりとして大きな意味をもち、人間としての在り方や生き方などについて多様に感じ、考えを深め、学び合う共通の素材として重要な役割をもっている。道徳の時間に用いられる資料の具備すべき要件や内面的な自覚を深める要件は表2、表3の通りである。

表2 資料の具備すべき要件

ア	人間尊重の精神にかなう資料
イ	ねらいを達成するのにふさわしい資料
ウ	児童の興味・発達にふさわしい資料
エ	多様な価値観が引き出される資料
オ	特定の価値観に偏らない中立的な資料

表3 内面的な自覚を深める要件

ア	児童の感性に訴え、感動性の豊かな資料
イ	人間の弱さやもろさに向き合い、生きる喜びや勇気を与えられる資料
ウ	生や死の問題、人間としてよりよく生きることの意味などを深く考えさせられる資料
エ	体験活動や日常生活などを振り返り道徳的価値の意義や大切さを考えさせられる資料
オ	多様で発展的な学習活動を可能にする資料

5 絵本の資料化と分析について

(1) 絵本の資料化

絵本には、子どもの興味・関心を誘う、美しい挿絵やリズムカルな文章などの豊かな表現が随所にちりばめられており、複数の道徳的価値が含まれている。そこで、本研究では、ねらいとする道徳的価値に迫る心に響く絵本を資料化し、資料の長さや内容をよく吟味、検討した上で活用していく。絵本の世界に十分浸らせる手立てとして、絵本を紙芝居やペーパースートにしたり、BGMなどを用いることにより、道徳的価値がより内面化されると考える。

(2) 資料分析について

ねらいとする価値を明確にし、主体的に考えていくための手だてとなる、発問の内容や場を精選するためにも、資料分析をすることが大切である。

<資料分析の手順>

- ① 価値内容・ねらいを明らかにする。
- ② 話の筋に沿っていくつかの場面に分ける。
- ③ 主人公の行為を事柄の推移に従って書き抜く。
- ④ 主人公の気持ちや考えを推察する。
- ⑤ 中心価値をはっきりさせる。(他価値との関連)
- ⑥ 中心場面をおさえ、資料を構造的に捉える。
- ⑦ ねらいに迫るための基本発問、中心発問を考える。
- ⑧ 児童の反応や意識をその立場になって予測し資料を検討する。

III 指導の実際

1 総合単元的な道徳学習の年間指導計画の構想 (主題に迫る複数価値)

1 学期	2 学期	3 学期
<総合主題> ～みんないっしょに生きていく～ (12時間中5時間で構成する) ↓ <家庭愛>4-(3) 「お母さんのせいきゅう書」 <友達とふれあおう>2-(2) 「じゅげむじゃんけん」 <信頼友情>2-(3)「あのときすぎになったよ」 <かけがえのない命>3-(2) 「自分の番のちのバトン」 <友達のよさ>2-(3)「きつねのおさくさま」	<総合主題> ～本当の強さ、やさしさとは～ (14時間中8時間で構成する) ↓ <ねばり強く>1-(3)「グレンよ走れ」 <友情・信頼>2-(3)「いのりの手」 <思いやりの心>2-(2)「わたしの妹」 <生命の尊さ>3-(2) 「人類愛の金メダル」 <きまりを守る>4-(1) 「年老いた旅人」 <正直な心>1-(5)「かぼちゃのたね」 <本当の勇気とは>1-(4) 「心に響く鐘の音」 <無償の愛>4-(3)「おおきな木」	<総合主題> ～だれかのためにできること～ (9時間中6時間で構成する) ↓ <進んで人のために>4-(2) 「神戸ふっこうは、ぼくらの手で」 <生きた礼儀>2-(1) 「フィンガーボール」 <信頼・友情>2-(3)「泣いた赤おに」 <敬虔>3-(3) 「ゆうどうえんぼく」 <生命尊重>3-(2) 「病気の人を助けたい」 <思慮・反省>1-(2) 「よみめ読ったホームラン王」

2 総合単元の実際

(1) 総合主題名 みんないっしょに生きていく

(2) 総合主題設定理由

人は一人では生きていけない。家族、友達、自分と関わる人や自然など、生命あるものに支えられ、助け合いながら生きていく。心と心を結び、励まし合いながらいっしょに生きていく。その素晴らしさに気づき、感謝し、思いやりをもって接していける心豊かな子どもに育ててほしい。(以下省略)

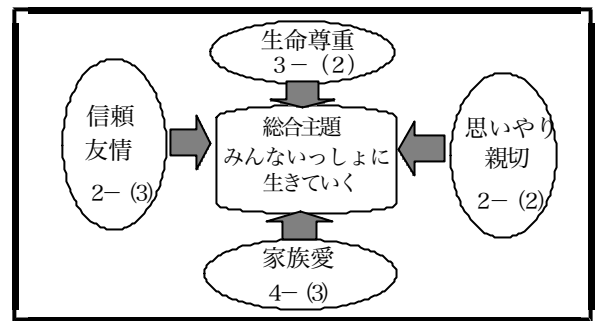


図2 主題に迫る複数価値

(3) 総合単元構想 複数価値総合型)

総合主題 「みんないっしょに生きていく」 (1学期)		価値の自覚の内面化を図る手立て		仮 説
道徳の時間 学習内容・ねらい		手だて・<検証>		
<家庭愛> 4-(3) 「お母さんのせいぎゅう書」 親の深い愛情に感謝し家族の一員として尽くそうとする心情を育てる。 <友達とふれあおう> 2-(2) 「じゅげむジャンケン」を通して友達とかかわり、仲良くなろうとする。 <信頼・友情> 2-(3) 「あのときすきになったよ」友達のよさをみつけ、互いに理解し、信頼して助け合おうとする心情を育てる。 <かけがえのない生命> 3-(2) 「自分の番 いのちのボタン」生命の尊さ感じ取り、それを何よりも大切にしようとする心情を育てる。 <友達のよさ> 2-(3) 「きつねのおきやくさま」よさを認め合ってから友情を育み信頼し、助け合おうとする心情を育てる。	資料の前半で実際に自分のお母さんに請求書を書かせる。 <ワークシート> 学級で話す機会が少ない相手からジャンケンをさせるようにする。 <感想用紙> 絵本を紙芝居にすることで、子どもの興味関心を高め、資料に十分浸らせる。 <ワークシート> 「いのちのつながり」のワークシートを書くことで詩に共感させる。 <ワークシート> 絵本を紙芝居にすることで、子どもの興味関心を高め、資料に十分浸らせる。 <ワークシート>	ハートフルタイム (主な絵本) 「ラブユーフォーエバー」 「おおきな木」 「いつまでもすきでいてくれる」 「パピ、お月さまとって」 「ふたりはともだち」 「ないた赤おに」 「わたしのいもうと」 「どんなにきみが好きだか あててごらん」 「たいせつなあなた」 「きいちゃん」 「おおきな木」 「ともだち」 「100万回生きたねこ」 「トムテ」 「たすけて」 「葉っぱのフレディ」 「ふたりはきょうも」 「てがみをください」 「わたしのせいじやない」 「わすれられないおくりもの」		詩の群読 (朝の会) 「どんな人にも」 立原えりか 「雨」 星野富弘 「ともだち」 薫くみこ 「いのちのボタン」 相田みつお 「あくび」 谷川俊太郎
		お金にはかえられない親の愛情に気づけば、家族の一員として協力しようとする態度が育つだろう 人とふれあうことの楽しさを感じることから、友達をたくさん作りたいという心情が育つだろう 友達と助け合うことがステキだと感じれば、友達のよさを見つつけ大切にしようとする心情が育つだろう いのちが、たくさんの人から受け継がれてきたかけがえのないものであると感じることで、自他の生命を大切にしようとする心情が育つだろう 友達のよさをたくさん見つけ、ほめてあげることのすばらしさを感じれば、友情を深め、助け合っていこうとする態度が育つだろう		

3 授業実践 抜粋)

(1) 家庭愛 お母さんのせいぎゅう書

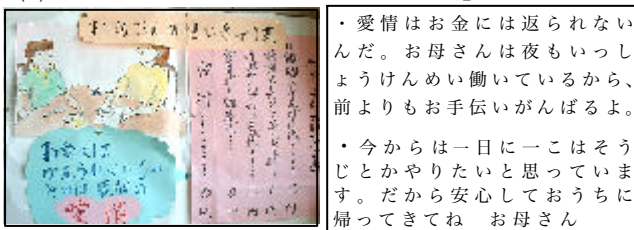


写真1 掲示資料 <子どものワークシートより>

資料の前半と後半を分けて提示し、前半で自分のお母さんへの請求書を作らせたが、ほとんどの子が500円から1000円の請求書を書いた。後半で、お母さんの合計0円の請求書を提示すると、予期していなかった金額に対する驚きで、お手伝いの報酬に対する請求書を書いたことを反省する声が多く聞かれた。

価値の自覚の場面では、親の無償の愛に感動し、「家庭において自分にできることは何か」について考えることができた。

(2) 信頼・友情 あのときすぎになったよ (絵本)

主人公「ゆいこ」のじやまをする「しっこさん」だが、「ゆいこ」が、おもらしをした時は、機転を利かせてかばってあげた。子どもたちは、その場面に引き込まれ、友達を思う真の姿に感動したようだ。

事前にとった「友達紹介アンケート」(ほとんどの子が友達のよさを紹介)を取り上げると、ほめた子もほめられた子もうれしそうで、友達を思う温かい雰囲気が学級に広がった。

気持ちを表す文章表現が多いと、主人公の気持ちを考えるとき妨げになるので、資料をよく吟味する必要性を感じた。

・ゆいこはまりかを絶対いい人だと思ったと思います。私はまりかさんのように人にやさしくせつてあげたいです。
・今日の道德の時間はすごかったです。一番思ったことは友達っていいなという事です。



<子どものワークシートより> 写真2 掲示資料

(3) かけがえのない生命 自分の番 いのちのボタン

「いのちのボタンを受けついで、いまここに、自分の番を生きている」ということを実感するために「いのちのつながり」のワークシート(家系図)を活用した。子どもたちは、普段は考えない何世代も

前からの先祖の存在に目を向け、いのちが何代にも渡って受け継がれてきたことを知ることにより「だからいのちはかけがえがないんだ」ということを実感したようだ。短くても端的に表現された相田みつ

をの詩の中には、人の生き方にかかわる様々な道徳的価値が含まれており、子どもたちはいのちの大切さを観念ではなく実感として捉えることができた。

4 検証授業

(1) 主題名 友達のよさ 2-(3)

(2) 資料名 「きつねのおきやくさま」

あまん きみこ作 サンリード

(3) 本時のねらい

友達のよさを見つけ、認め合う中から、温かい信頼関係が育まれていくことに気づかせ、友達と信頼し合い、助け合おうとする心情を育てる。

(4) 授業仮説

① 心に響く絵本を資料化し、活用を工夫することで、十分感動にひたらせることができるだろう。

② 資料を通して、きつねの変容について話し合うことにより、友達のよさを見つけ、互いに信頼し、助け合おうとする心情を育てることができるだろう。

(5) 本時の展開

段階	学習活動・主な発問及び予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 5分	1 自分の欠点について話し合う。 みなさんには欠点がありますか。	・自分の欠点について考えることで価値への方向付けをする。
展開 35分	2 絵本「きつねのおきやくさま」を読んで話し合う。 ① きつねはどんな気持ちで、ひよこに「よしよし、おれのうちにきなよ」と言ったのでしょうか。 ・ふとらせてから食べよう ・食べてやろう ② うまれてはじめて「やさしい」と言われたきつねはどんな気持ちになったでしょう。 ・うれしい ・はずかしい ・いい気持ち ・てれるな ③ きつねはどんな気持ちでおおかみとたたかったのでしょうか。 ・ぼくを信じてくれる3びきを守るぞ。 ・一番強い自分が逃げるわけにはいかない。 ・よーし たたかうぞ。	・登場人物や簡単なあらすじを確認しながら、すすめる。 ・きつねの変容を見ていくために、最初はひよこを食べてやろうとしていたことを押さえる。 ・はじめはおそろしいと思われていたきつねが、うまれてはじめてほめられることで、よろこびをかみしめている気持ちに十分共感させる。 こわい おそろしい → やさしい かみさまみたい しんせつ ・よさをほめられることによりだんだん変わっていくきつねについて話し合う。 ・切り返しの発問を入れることにより、信頼に答えようとするきつねの価値観にふれさせる。
価値の把握	写真3 板書資料	
価値の自覚	3 自分の生活を振り返り、話し合う。 友達にほめられてうれしかったことはありますか。そのとき、どんな気持ちでしたか。	・事前のアンケートを紹介することで目他の経験を振り返り、よさを認め、信頼し合うことの素晴らしさを感じ取らせる。
終末 5分	4 教師の説話をする。	・感想を書かせることにより実践意欲を高める。(時間があれば発表させる。)

(6) 授業仮説の検証

① この絵本のよさを、より効果的に子どもたちに伝える手だてとして、絵本をカラー拡大コピーし紙芝居にして提示し、読み聞かせをすると、子どもたち生き生きと目を輝かせ、身を乗り出して資料に集中した。ほのぼのとした挿絵や絵本の持つ豊かな表現、内容のよさにふれ、なかなか発言しない子ども、自分の考えを生き生きと語る場面が見られた。「紙芝居を読んでもらってとても感動した」などの感想も聞かれ、資料活用の工夫が生きたと考える。

・今日、ぼくは紙芝居を読んでもらってとても感動しました。
・ひよことあひるとうさぎを守るために、きつねはおおかみとたたかって、とてもとても感動しました。



＜子どものワークシートより＞写真4 紙芝居を見る子どもたち

② 基本・中心発問だけでは、ねらいに迫れないので、「やさしいといわれ喜んでいるきつねなのに、なぜひよこを逃がしてあげなかったのか」と切り返しの発問をすることで、きつねの心の葛藤に目をむけさせることができた。中心発問の「おおかみと戦ったきつねの気持ち」に対して、「信頼されてうれしかったから」「親友だから」「恩を返すために」などねらいに迫る反応が次々に出て、「やさしいという言葉でこんなに性格が変わっていくなんてすばらしい」という反応など、よさを認める言葉かけが、いかに人を変容させるかを実感したようだ。

自分を振り返る場面では、「友達にほめられてうれしかったこと」のアンケートを紹介したが、子どもたちはにこにこしながら

「やさしい」という言葉でこんなにせいかくがかわっていくなんて、すばらしいなと思いました。私もとてもだちをほめてあげたいです

＜子どものワークシートより＞ け、助け合うことへの意欲が高まった。

5 研究仮説の検証

(1) 総合単元的な道德学習の評価

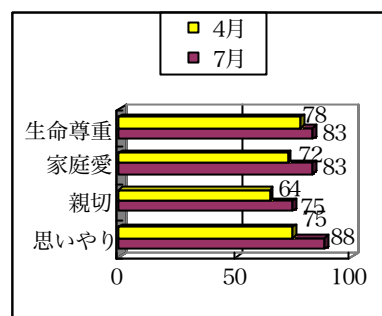
心に響く、魅力ある資料を活用するとともに、授業のねらいと詩の群読や絵本の読み聞かせを関連付けて実践することで、子どもの課題意識が継続し、

ねらいとする価値に迫ることができた。つねに総合主題「みんないっしょに生きていく」に結びつけることで、子どもたちは「助け合って生きているんだ」ということを実感し、人とかかわりのなかで生きているということを意識し始めたようである。

・道德の時間に勉強したみつをさんの詩を、朝の会で読むたびに、いのちのたいせつさを感じました。
・私たちはみんな助け合って生きているんだな。家族やともだちにありがとうと言いたい。

(2) 子どもの道德性の高まり

道德性検査 (HUMAN) の結果から



総合単元的な学習の前後で、道德性検査を実施し、主題に迫る4つの価値を取り上げ、子どもの変容を調査した。その

結果、「生命尊重」「家庭愛」「親切」「思いやり」の数値がそれぞれ5～13ポイント上昇し、子どもたちの道德性は高まったと言える。

IV まとめと今後の課題

豊かな心を育むため道德性や道德的感性について考え、総合単元的な学習を設定することを通し、心に響く資料の活用を工夫し実践することができた。

1 成果

(1) 道德の時間のねらいと詩の群読や絵本の読み聞かせ等を関連付けて展開することで、道德的価値の内面化が図られ、道德性の高まりが見られた。

(2) 心に響く詩や絵本を資料化し、活用を工夫することで、子どもたちが生き生きと授業にのぞみ、主体的に自分の考えを述べることができた。

2 課題

(1) 総合単元的な学習の年間計画を充実させる。

(2) 日常生活において、感動体験の場を生かす工夫をする。

＜主な参考文献＞

- 石川侑男 著 1997 『感性豊かな子どもを育てる道德教育の創造』 文教書院
押谷由夫 著 1995 『総合単元的道德学習論の提唱』 ぶんけい
笹田博之 編 1995 『総合単元的道德学習の実践』 明治図書